

「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」月～金6:30～9:59

「ほっかほか・嘶の朝ごはん」月～金7:15～約13分間

2020年3月16日(月)～3月20日(金)

シリーズ:今週のトピックス

2020年3月18日(水)

「農家のための土と肥料の研究会」について

ゲスト:「全国土の会」

の

会長 後藤 逸男(ごとう・いつお)さん

薫 さて、「ほっかほか・嘶の朝ごはん」。

今日は「農家のための土と肥料の研究会」について、という話題です。

晃瓶 農家のための土と肥料の研究会「全国土の会」を立ち上げ、農家自身が土壌診断に基づき、土の改良と養分管理を実践するように働きかけています。

各地の野菜生産地の土を調べて気づいたのが「土のメタボ化」ということです。人と同じように、野菜の土が栄養を摂り過ぎてメタボになっているそのメタボ化を解消するために、生ごみをリサイクル肥料にするアイデアも考案し、全国各地に、数多くの支部も誕生しているといえます。

「全国土の会」がどういった会なのか。どのような活動を行っているのか。

いろいろとお話をお聞きしましょう。

そこで、お話しを伺うのは、

東京農業大学名誉教授で「全国土の会」の

会長 後藤 逸男(ごとう・いつお)さんです。

晃瓶 おはようございます。

Q 1 まず、後藤逸男さんが会長を務めておられる「全国土の会」ですが、いつ、どのようないきさつで立ち上げられたのでしょうか？

A 1 おはようございます。「全国土の会」ですが、32年前に立ち上げました。私は約50年前から、全国の野菜産地の土の健康状態を調べようと、各地で調査を行って来ました。その結果、古い産地の土ほど、窒素やリン酸、カリなどが溜まっていました。いわば、「土のメタボ化」です。窒素・リン酸・カリは作物が育つのに不可欠な肥料の三要素ですが、特に、リン酸が溜まりすぎると土の健康を損ね、野菜の根から感染する病気に罹りやすくなります。人の健康にたとえると、リン酸はコレステロールのようなものです。

「農家は野菜づくりのプロ」ですが、必ずしも「土づくりのプロ」ではないことも、長年の農家との付き合いでわかりました。

そこで、農家の皆さんにしっかりと土と肥料の基礎を勉強して頂こうという目的で、今から32年前の平成元年に立ち上げたのが、農家のための土と肥料の研究会「全国土の会」です。

Q 2 会の立ち上げ当時は、各地の畑の土は、どのような状況だったのでしょうか？

A 2 日本で一番古い野菜の産地といえば京都ですが、25 年ほど前に田鶴 均さんという京野菜農家がすぐきの畑で「根こぶ病」という病気が出て悩まされているので、調べてほしいと言ってきました。土を調べたところ、リン酸がしっかり溜まって「メタボ化」していました。おまけに土の酸性も強く、根こぶ病が出やすい状態になっていました。

Q 3 土を改良するには、どのようなことをする必要があったのでしょうか？

A 3 田鶴さんはすぐに「全国土の会」に入会し、根こぶ病対策にチャレンジしました。根こぶ病は酸性の土で出やすいため、転炉スラグという酸性改良資材を施しました。次に、溜まったリン酸を減らして、メタボを解消する必要がありますが、それには、リン酸の少ない肥料を施すことが一番です。そのような肥料が、私たちの開発した生ごみ肥料「みどりくん」です。

Q 4 生ごみをたい肥化することは、各家庭でもやっている人もいますが、大量に、しかも、短期間に、たい肥化させることに成功したのは、どのような工夫があったからなのでしょう？

A 4 「みどりくん」は「たい肥」ではありません。「たい肥」とは微生物の働きを借りて、生ごみを肥料にする方法ですが、時間がかかります。また、できた生ごみたい肥は臭いがきついので、町中では使えません。

そこで、私たちは、微生物の力を一切借りないで、生ごみを乾燥して、油を搾ります。いわば、生ごみの油粕を農家が使いやすいようにペレットに加工した肥料が「みどりくん」です。生ごみから、わずか数時間で出来てしまいます。くさい臭いも全くありません。

その「みどりくん」を分析したところ、窒素多く、リン酸の少ない肥料でした。そのため、リン酸の溜まった「メタボな土」には、ぴったりの肥料だと言うことがわかりました。

Q 5 新規開発された「みどりくん」を実用化するには、いろいろ苦勞されたようですが。

A 5 はい、たいへん苦勞しました。まずは、生ごみという廃棄物から作った肥料という農家の先入観ですね。そこで、お互いに信頼関係にある「全国土の会」の会員にお願いして試して頂いたところ、「みどりくん」の威力がわかってきました。これまでの肥料よりおいしい野菜ができたんです。

苦勞したもう一つのことは、「みどりくん」はこれまでにない全く新しい肥料でしたので、法

律上の制約があり、肥料として流通させることができないことでした。

しかし、2018年10月には、法律の改正により「みどりくん」が有機質肥料のひとつとして使えるようになりました。

Q 6 さて、「全国土の会」の活動を通じて、どのようなことを農家さんたちに実践してもらいたいと思っていますか？

A 6 土を「メタボ」にせず、健康にするには、人と同じです。土の健康診断である土壌診断を行い、その結果に忠実に対応することが必要です。養分が足りなければ、肥料として補給し、「メタボ」になっていれば、リン酸をできる限り施さないようにします。足りない養分の補給は農家誰でもできますが、肥料を減らしたりやらなかったりすることは、勇気がいります。「メタボ」であれば、勇気を振り絞って肥料を減らすことを全国の農家の皆さんにアピールしたいと思います。

Q 7 また、「全国土の会」は、どのような広がりを見せているのでしょうか？

A 7 32年目の「全国土の会」ですが、現在全国に22の支部組織があります。来月には福島で新支部が誕生しますが、都道府県数の半数程度に過ぎません。「全国土の会」の名の通り、全国にこの活動を展開したいと考えています。

Q 8 そして、「全国土の会」が目指しているのは、どういったことでしょうか？

A 8 究極の目的は、環境にやさしい農業、具体的には生ごみなどのバイオマス資源や国内産の未利用資源を活用した有機物活用型農業、略して「有機農業」です。ただし、私たちの目指す有機農業では、土の健康を保つために、化学肥料も使います。それでは「有機農業」ではないという人が多いのですが、そのような人には、私たちが目指す「ゆうき農業」は「有機農業」ではなく勇気を出して肥料を減らす「勇気農業」です、と答えています。

Q 9 お問い合わせ先を教えてください。

A 9 「全国土の会」のホームページがあります。そちらからメールでも問い合わせできます。電話の場合は、03-3426-1771 です。